

20 高虫防第 63 号
平成 20 年 10 月 2 日

関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第 3 号を送付します。

平成 20 年度病虫害発生予察注意報第 3 号

平成 20 年 10 月 2 日
高知県病虫害防除所

病虫害名 タバココナジラミ

1. 対象作物：施設果菜類（ナス、ピーマン・シシトウ、トマト）
2. 発生地域：県内全域
3. 発生時期：9 月中旬以降
4. 発生程度：多
5. 注意報発令の根拠
 - 1) 9 月 4 ~ 5 半旬に実施した巡回調査では、県東部 ~ 中央部の促成ナス、ピーマン（定植 ~ 収穫初期）での本虫の発生は平年を大きく上まわっており、寄生株率も高い（表 1）。また、聞き取り調査などでも、施設果菜類全般で育苗から定植期にかけて発生が目立つという報告が寄せられている。
 - 2) 南国市（露地）における黄色粘着板によるコナジラミ類の誘殺調査では、発生密度の高かった前年と同様に高い水準で推移している（図 1）。
 - 3) トマトでは本虫が媒介する黄化葉巻病（TYLCV）の発生が、またピーマン・シシトウでは本虫の寄生によって果実の白化（退色）症状が生じる場合があり、その被害が懸念される。
 - 4) 天敵導入を行うハウスでは天敵導入後の薬剤防除が制限されることから、今後さらに密度が上昇する恐れがある。
 - 5) 向こう一ヶ月の気象予報では、平年より気温が高い見込みであることから、野外での密度低下が少なく、今後も発生の増加が予想される。
6. 防除対策
 - 1) 育苗期からの薬剤防除などにより苗から本圃への持込を防ぐとともに、定植時の粒剤処理など栽培初期からの防除を徹底する。なお、薬剤散布の際は抵抗性発達回避のため同一系統の薬剤の連用を避ける。
 - 2) 施設開口部への防虫ネット（1 mm 目以下）被覆、ほ場周辺の除草（播種、定植前から実施）、可能な作物での近紫外線カットフィルムや黄色粘着シートの利用など、成虫の侵入防止と密度低下に努める。

表1：促成ナス、ピーマンでのタバココナジラミの発生状況（平成20年9月）

		促成ナス			促成ピーマン		
		発生面積(ha)	発生面積率(%)	寄生株率(%)	発生面積(ha)	発生面積率(%)	寄生株率(%)
東 部	本年	271.7	95.0	21.9	10.5	37.5	30.0
	平年	81.9	28.6	10.7	9.5	33.9	4.7
中央部	本年	42.0	87.5	50.0	39.5	50.0	17.2
	平年	34.3	71.5	19.6	20.6	26.1	3.9

ナス栽培面積：東部286ha、中央部48ha ピーマン栽培面積：東部28ha、中央部79ha

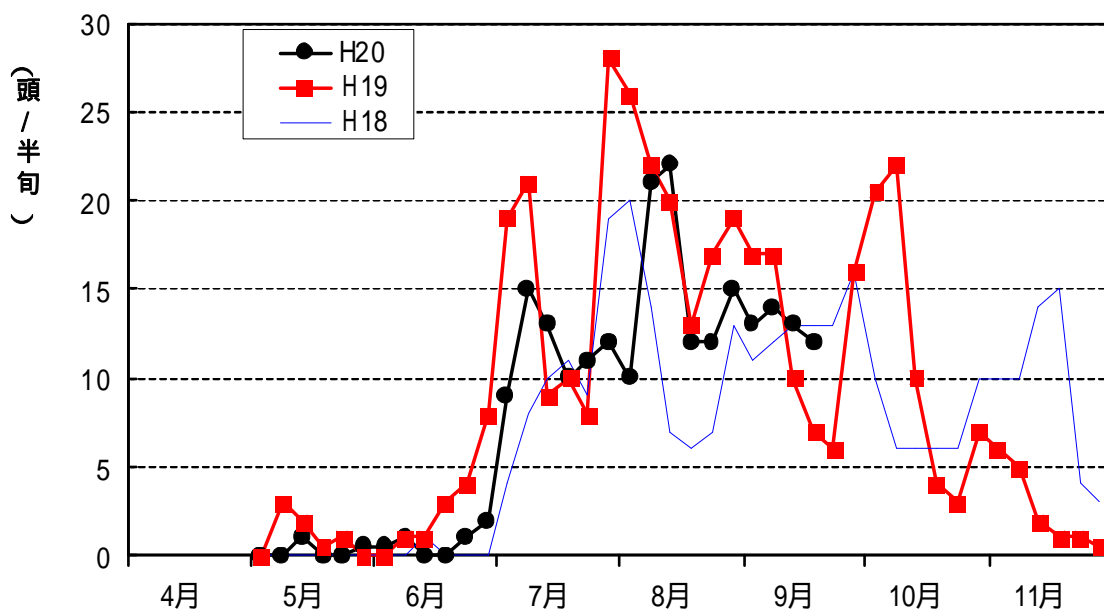


図1：黄色粘着板によるコナジラミ類の半旬あたり誘殺数の推移(南国市)